

製品名: プロテイン C ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16530**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	PROC
別名	PROC; Vitamin K-dependent protein C; Anticoagulant protein C; Autoprothrombin IIA; Blood coagulation factor XIV
遺伝子 ID	5624.0
SwissProt ID	P04070
免疫原	抗血清はヒト PROC の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 181-230

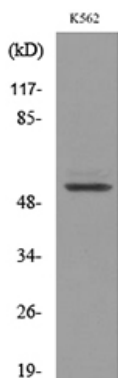
背景

この遺伝子はビタミン K 依存性血漿糖タンパク質をコードしています。コードされているタンパク質はトロンビン-トロンボモジュリン複合体によって活性型に切断されます。この活性型はセリンプロテアーゼドメインを含み、活性型の血液凝固第 V 因子および第 VIII 因子の分解に機能します。この遺伝子の変異は、プロテイン C 欠乏症による血栓形成症、新生児電撃性紫斑病、および再発性静脈血栓症と関連付けられています。[RefSeq 提供、2009 年 12 月]、触媒活性: 血液凝固第 Va 因子および第 VIIIa 因子の分解、疾患: PROC の欠陥は、常染色体優性プロテイン C 欠乏症 (ADPROCD) の原因です[MIM:176860]。ADPROCD は遺伝性血栓形成素因の原因であり、血液凝固の調節障害と再発性静脈血栓症の傾向を特徴とする止血障害です。しかし、ヘテロ接合性疾患の成人の多くは無症状の場合があります。プロテイン C の量が減少している人は、従来、I 型プロテイン C 欠乏症、機能的に欠陥のあるタンパク質の量が正常である人は II 型欠乏症と呼ばれています。、疾患: PROC の欠陥は、プロテイン C 欠乏症常染色体劣性 (ARPROCD) [MIM:612304] の原因です。ARPROCD は血栓性疾患を引き起こし、重篤な新生児障害として、または遅発性血栓形成素因を伴うより軽度の障害として発現する可能性があります。重症型は、新生児の重篤な静脈血栓症により新生児死亡につながります。しばしば、電撃性紫斑病と呼ばれる壊死性に変化する可能性のある斑状出血性皮膚病変を伴うこの疾患は非常にまれです。、機能: プロテイン C はビタミン K 依存性セリンプロテアーゼであり、カルシウムイオンとリン脂質の存在下で第 Va 因子および第 VIIIa 因子を不活性化することにより、血液凝固を制御します。、その他: カルシウムは、GLA ドメイン以外の別の部位にも、より強い親和性で結合します。この GLA 非依存性結合部位は、トロンビン-トロンボモジュリン複合体の認識に必要です。、オンライン情報: プロテイン C エントリ、PTM: 非定型 N-X-C 部位による Asn-371 の部分的 (70%) N グリコシル化により、 α と呼ばれる高分子量型が生成されます。Asn-371 がグリコシル化されていない低分子量の形態はベータです。、PTM: 鉄および 2-オキソグルタル酸依存性のアスパラギン酸およびアスパラギンの 3 位ヒドロキシル化は、EGF ドメイン内で (R) 立体特異的です。、PTM: ビタミン K 依存性の、いくつかの Glu 残基の酵素的カルボキシル化により、修飾されたタンパク質がカルシウムと結合できるようになります。、配列注意:Cys として翻訳されます。、類似性:ペプチダーゼ S1 ファミリーに属します。、類似性: 1 つの Gla (ガンマカルボキシングルタミン酸) ドメインを含みます。、類似性: 1 つのペプチダーゼ S1 ドメインを含みます。、類似性: 2 つの EGF 様ドメインを含みます。、サブユニット: 単鎖前駆体として合成され、ジスルフィド結合によって一緒に保持された軽鎖と重鎖に切断されます。その後、この酵素はトロンビンによって活性化され、重鎖のアミノ末端からテトラデカペプチドを切断します。この反応は内皮細胞の表面で起こり、トロンボモジュリンによって強く促進されます。、組織特異性:血漿;肝臓で合成されます。、

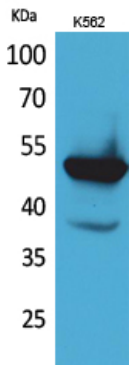
研究分野

補体と凝固カスケード;

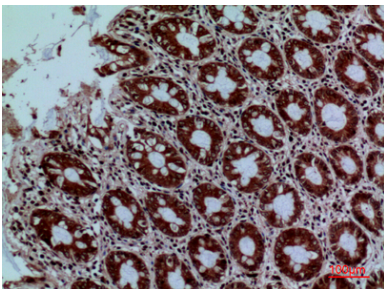
画像データ



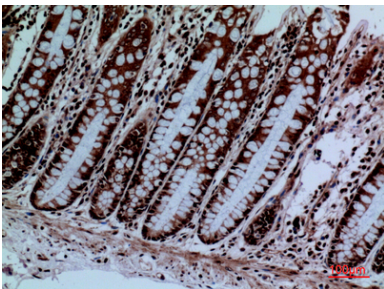
PROC 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



プロテイン C ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された